


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成29年2月15日

山北町議会議長 府川輝夫 殿

|   |                        |      |    |       |   |
|---|------------------------|------|----|-------|---|
| 受付番号  | 第2号                    | 質問議員 | 5番 | 原 憲 司 |  |
| 件名  | 町の主要な農産物である足柄茶の振興策について |      |    |       |   |
| 要 旨   |                        |      |    |       |   |
| <p>当町の特産物として、広く知られている足柄茶の作付け面積は、統計で見る農林業センサスによると2005年が31ヘクタールで、2015年は26ヘクタールとなっており、5ヘクタールの減となっています。</p> <p>また、グリーンティーあしがらの生産状況は、平成23年度が生産面積3,200アールに対して集荷量が134,509キログラムで、平成27年度は生産面積2,809アールに対して集荷量が96,638キログラムであり、生産面積が391アール、集荷量が39,871キログラムの減となっています。</p> <p>こうした状況は、当町の高齢化が進んでいることにより、農作業に従事する高齢者が減少しているとともに、若者が町外へ出て行き、高齢者のみの家族になっているため、お茶栽培などの農業従事者が減少していることが、足柄茶の栽培や生産の大きなマイナス要因になっています。</p> <p>そこで、当町の足柄茶の振興や足柄茶による観光振興を充実させる対策について、次の4点について質問します。</p> <p>1. 山北町のお茶の栽培や生産は、町全体の活性化や地域の振興に繋がるので、足柄茶の栽培や生産については、お茶畑の地権者や農協茶業センター及び関係団体と積極的に話し合いや協議を行い、足柄茶の振興を図ってはどうか。</p> |                        |      |    |       |   |

2. 高齢化により、お茶の栽培や収穫などに取り組む、お茶農家やお茶の耕作地が減少しているのが現状であるので、お茶の栽培や収穫を行うグループや団体を設置するとともに、町内の高齢者等が働く町のシルバー人材センターの活用を図り、お茶の栽培や収穫を積極的に推し進めるため、町やシルバー人材センター及びグループ・団体並びにお茶畑の地権者と十分協議、話し合いを行い、各団体等にお茶の栽培や収穫を行うお茶刈り機などの器具を提供するため、国や県の補助金を活用して、お茶刈り機などの器具を購入し、お茶刈り機等の貸し出しをする中で、町の主要農産物である足柄茶の栽培や収穫の拡大を図る取り組みを積極的に推し進めてはどうか。
3. 三保ダム下流のお茶畑が耕作者の高齢化により、お茶畑の耕作ができなくなるとのことですが、ダム建設に合わせて整備したお茶畑ですので、グループや団体等と存続のための話し合いを行い、お茶畑の耕作を推し進めてはどうか。
4. 山北駅前の観光協会や清水地区の道の駅及び三保地区の丹沢湖記念館で、町の特産品である足柄茶を観光客に積極的に提供するとともに、足柄茶の宣伝やピーアールを積極的に行い、山北町の足柄茶の振興を図るとともに、観光入込客の増加を図り、地域の活性化と町のにぎわいづくりを推し進めてはどうか。

以 上